



# ふれあい



## 【基本理念】

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

### - 目次 -

2016年度はじめにあたって	院長 望月泉 ……2
退職のごあいさつ	……………3
沼宮内地域診療センター長新年度のごあいさつ	川村実 ……4
紫波地域診療センター長新年度のごあいさつ	小野満 ……4
アメリカからの見学実習生マイケル先生と過ごした一週間	坂本和太 ……5
健康に毎日を過ごすために～市民公開講座のご紹介～	小笠原真義 ……5
「初期研修医臨床研修終了式を終えて」	水堀路子 ……6
東北農政局長賞受賞およびアンバーのヘルシーメニュー監修について	曾我美沙希 ……7
第66回日本病院学会市民公開講座のご案内	藤本繁 ……8
編集後記	広報委員長 島岡理 ……8

## 【行動指針】

- 1 良質な医療の提供
- 2 優れた医療人の育成
- 3 地域医療機関への診療支援
- 4 救急医療の充実
- 5 災害医療の体制整備
- 6 臨床研修体制の充実
- 7 健全で効率的な病院経営

※ 広報誌「ふれあい」は1,700部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

## 2016年の年度はじめにあたって

院長 望月 泉



2016年度の年度はじめにあたって一言ごあいさつ申し上げます。まず岩手県の医療提供体制の特徴について述べたいと思います。県内の医療連携は、広い県域、少ない人口、未発達な交通手段などをふまえ、県が主導して行ってきた経緯があります。県内、9つある2次医療圏の基幹病院はすべて県立病院で、県立病院間では、日常的に患者の移送や、医師不足を補うための診療応援が行われています。5年前の東日本大震災では、被災した沿岸部の病院から内陸部の病院へとスムーズに入院患者を並行移送する「肋骨支援」が行われました。「肋骨支援」は情報に断続があるなかで大きな力を発揮し、注目されました。

本年は6月23日(木)、24日(金)の2日間、第66回日本病院学会を盛岡市で開催します。テーマは「医療人のあるべき姿、BUSHIDO(智・仁・勇)をもって―地域を支える医療、地域が育む医療―」としました。どんなに医療提供体制が変わろうとも、あるべき医療人のこころを追求したいと思います。当院の基本理念は、「高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院」です。この基本理念を実現するためには、われわれ医療人の「心」が重要となります。高度急性期医療の中でどうしても後回しにされそうになる「心」を医療の提供者として常に年頭において行動しなければなりません。言い換えれば、患者さん、人間に対する愛情です。もしそうでなければどんなに質の高い医療を提供しても理解されませんし、われわれの基本理念そのものが実現できなくなります。

平成31年5月には岩手医科大学病院が矢巾に移転します。盛岡医療圏の救急医療体制、当院のあるべき姿を検討する必要があります。ドクターヘリは発進回数も着実に増加し、救急の現場で活躍しています。その最大メリットである搬送時間の短縮をできる限り活用するためには、盛岡市内において通年使用できるヘリポートが必要です。現在使用している東警察署は冬期間は使用できず、また屋上にヘリが着陸した後の患者搬送に時間がかかります。岩手医科大学病院が矢巾に移転することを前提に、当院の近くにヘリ

ポートがあれば患者搬送の時間短縮と同時にもし盛岡中心部に大事故・災害が発生した場合の広域搬送にも対応できます。ヘリポート建設を今年目標の一つと考えています。

以上、年度はじめにあたりのごあいさつとさせていただきます。



## 退職のごあいさつ

## 放射線科とは何か

副院長 佐々木 康夫

私が大学を卒業した頃は、CT もまだなく、現在のような放射線診断業務は存在しませんでした。当時、放射線科を選択した医師は実態のない何かに自分の将来を託したのです。その後、CT の性能が飛躍的に向上し、MRI が使われ出して急激に周辺が慌ただしくなり今日に至っています。そして、デジタル画像の画質がフィルム法と同等になり、表示する高解像度のモニターも現実的な価格になって完全なフィルムレス時代が到来しました。画像データの利用についてもいろいろな提案や工夫がなされています。(定量化や画像処理)、画像情報はネットワークで活用できますので、患者個人も自分の情報を管理できるようになると思います。画像情報利用系の方向性がはっきりした今、放射線科医師は放射線の本質を良く勉強し、それを基に専門性を再構築する必要があると思われます。

中央病院には約四半世紀にわたりお世話になりました。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



## 退職にあたり

薬剤部長 松川 幸市

みなさん、本当に長い間お世話になりました。35年前、上の橋の袂にあった中央病院が初任地でした。狭い待合室に噓せ返るように患者さんが溢れていたのを覚えています。それから10回ほどの転勤を繰り返しましたが、最後に中央病院に戻って来ることができました。これも何かの縁なのだろうと感慨にひたっております。

今は、この35年があつという間だったような気がしています。こうして、つつがなく退職を迎えることができたのも、一重に、これまでご指導頂いた、院長先生ほか病院のスタッフの皆様、上司や先輩の方々、さらには優れた同僚・部下に恵まれたお陰と心より感謝しております。

最後に、皆様のご健勝とご活躍を、そして中央病院のご発展を心よりお祈り申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。



## 退職にあたり

中央検査部 岡村 三枝子

月日の過ぎるのは早く、もう自分に順番が回ってきたのかというのが実感です。夢と希望を胸に県立病院へ就職し、以来三十九年間勤めさせていただきました。振り返れば限りなく思い出がわいてまいります。

病院の運動会でタイヤに乗って走って落ちたこと、検査の忘年会ではみんな網タイツで踊ったこと等、(仕事に関係のない事ばかりですが、、、) この間良き先輩に出会っていろいろ教わり、そして良き同僚、後輩の助けをかりて無事定年を迎えることができた自分は幸せ者と心より思っています。これからは、新しい人生の始まり、有り余る時間を有意義に使いいろいろ思い描いてきたことを実現したいと思っています。

最後に皆様方のご健康と県立病院の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

## 沼宮内地域診療センター長 新年度のごあいさつ

川村 実

2016年4月にて岩手県立中央病院附属沼宮内地域診療センター長としての3年目を迎えます。当センターに通院している多くの患者さんは高血圧・糖尿病の治療で来院して来られますが、この治療の基本は運動や食生活の改善であり、これを怠るとどんなに優れた薬を使用しても薬の効果は減弱ないし消失します。運動や食事のいわば当たり前の生活習慣の改善ですが、この当たり前が高血圧、糖尿病発症の予防・治療に加えて認知症、骨粗鬆症やガンなどの病気の発症を防ぎます。特にこの沼宮内地域の方々には冬季の血圧の悪化とともに冬季の血糖も悪化していることがわかりました(岩手県立病院医学会雑誌、55:1-6、2015)。冬季の運動不足に対する対策を町役場の方々とともに検討したいと思っています。

内科常勤医として高橋清香先生は4月から2年目の勤務となります。高橋先生(旧姓家村)は沼宮内出身であり、センターが皆様に一層親しみのある病院となることに貢献していただけるものと期待しています。高橋先生は現在子育て中でその支援プログラムで勤務していますので、基本的には午前中の勤務となります。常勤内科医は1名のみですので、午後からは内科不在となりますので御注意ください。

当センターが岩手町休日急患診療当番日には外科医1名で対処してきましたが、昨年度から内科医も参加して2名体制と充実致しました。当番日には医療相談窓口として御利用ください。今後のセンター運営について皆様からお気づきのところがあれば御提言いただければ幸いです。



## 紫波地域診療センター長 新年度のごあいさつ

小野 満



新年度を迎えてご挨拶申し上げます。

皆さまはいかがお過ごしでしょうか。例年になく積雪が半分とのことで通勤通学には大変楽な冬でした。しかし突然の降雪があり、びっくりもしておりますが庭には酔仙の芽も出始めて福寿草も咲き、春の近いことが感じられます。

さて紫波地域診療センターでは今年に入ってから、C型慢性肝疾患の患者さんの姿がめっきり消えてしまいました。これまでは週2-3回ネオファージェンの注射をするために十数人は外来を賑わしておりましたが、昨年より開始しているインターフェロンフリー治療の成果で注射する必要がなくなったからです。紫波地域は昔からC型慢性肝疾患の患者さんが多いことで知られおり、今までの治療であったインターフェロン治療を行っても治癒しない人達や副作用で治療できなかった人達が残って、ネオファージェンの治療を継続しながら皆さんが高齢となっておりました。インターフェロンフリー治療は副作用が今までのインターフェロン治療と比較すると格段に少なく、治療を完遂することができ、治療中もウイルスが消失すると体調が良くなったとお話する方が多いようです。

それでは当センターでの治療成績を紹介します。治療を行った患者さんは男性21例、女性27例の48名です。年齢層は50台5例(10.4%) 60台17例(35.4%) 70台20例(41.7%) 80台6例(12.5%)と高齢者が多いのですが、途中中止例は4例(8.3%)で、HCVウイルス消失例は46例(95.8%)、再燃2例(4.2%)でした。

この様に慢性C型肝炎はインターフェロンフリー治療法で治癒する疾患となり、日本中で慢性C型肝炎撲滅作戦を展開しており、将来的に肝癌発生も減少すると言われております。治療をまだ行っていない方々は是非ご相談ください。

最後に私事で恐縮ですが本年定年の歳を迎え一句認めました。 如月の よわい六十五 まだつぼみ

## アメリカからの見学実習生マイケル先生と過ごした一週間

総合診療科 坂本 和太

滞在2週間のうち1週間は総合診療科で研修をしてもらいました。

「坂本先生、ボクって外人に見えますか?」「うん、見えるよ。」「ウソでしょ?ホントに?」大丈夫、ルックスは外人だよ。心配しないで。

「マイケルって日本語じょうずだよなあ。」「いえいえ、そんなコトないですよー。」あー、『謙遜』とか確かにそれは日本人だね。

「Michel, this is hot spicy oil. You can add into the bowl if you like.」「あ、はい、ラー油ですね?」あ、ラー油とかわかるんだ。

「マイケル、熱いの食べれる?」「大丈夫です。あ、でも、少し猫舌かもしれません。」猫舌で。

「坂本先生、ガロパンのクリームパン、絶品でした!」絶品で。

「このお好み焼き、超おいしい!アメリカにはこんなの、ひゃくパーありません。」超て!ひゃくパーて!それどこで教わんの?

日本語まったく問題なくスラスラしゃべるのに「すみません、少し日本語ヘンなトコあるかもしれません。」ってマイケルは言います。なので、今後もしそう言うならもう一文つけ加えなさいと教えました。「すみません、少し日本語ヘンなトコあるかもしれません。なにしろ、海外生活が長いもので・・・。」、そう言いなさいと。

マイケルくん、またいつでもいらっしやい。楽しい時間をありがとう。子供のころ、両親(お父さんアメリカ人、お母さん日本人)と日本に来て温泉旅館で「ママは疲れたからパパと二人でお風呂いってきなさい。」って言われて、マイケル本人としては何とも思わず無邪気にパパを女湯に連れ込んだハナシは内緒にしとくからね。



## 健康に毎日を過ごすために ～市民健康講座のご紹介～

業務企画室 小笠原 真義

市民健康講座をご存知ですか?当院ではより良い医療の情報発信と患者さんへのサービス向上を目的に平成20年1月より市民公開講座を開催しています。2か月に1度程度のペースで開催しており、これまでに45回を開催しました。

市民健康講座はがん・脳卒中・糖尿病・アレルギーなど毎回違うテーマで行っており、治療法・予防法・対処法などについて講演しています。講演は当院職員(医師を中心に看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士、歯科技工士など)が様々な視点で日常の生活では知ることが難しい内容を講演しております。

平成28年度は下記日程で6回の開催を予定しております。お気軽にご参加ください。

開催日時 ※1	開催場所	テーマ
4月17日(日) 14:00～	プラザおでって (盛岡市肴町)	根治できますー胃癌・大腸癌ー
7月24日(日) 14:00～		未定
8月28日(日) 14:00～		救急について(仮)
10月22日(土) 14:00～ ※2		未定
12月3日(土) 14:00～ ※2		未定
2月25日(土) 14:00～ ※2		未定

※1 会場は13:30、開演は14:00～となります。

※2 10月22日(土)、12月3日(土)、2月25日(土)は予定です。開催日が変更となる場合がありますので、ホームページもしくは電話にてご確認をお願いします。



## 「初期研修医 臨床研修修了式を終えて」

業務企画室 主任 水堀 路子

平成28年3月18日に行われた、平成27年度臨床研修修了式。2年間の初期研修を終えた18名が門出の日を迎えました。

まずは修了報告会。18名それぞれが当院での2年間を振り返り、将来の展望についても語ってくれました。例年以上に多かった列席者。1年間彼らの背中を追いつけた後輩研修医の姿も多く見られました。そして笑顔いっぱい会場。その場にいた皆がお腹を抱えて笑うほど。このような温かい報告会になるとは予想もしていませんでした。

そして修了証書授与式。1人ずつ病院長より修了証書を受け取ります。緊張の中にも、少し誇らしげな表情が、この2年間の充実した研修生活を物語っているようでした。



修了式前に行った個人写真の撮影会。例年であれば、研修医が順番に入れ替わる撮影会場。今年はいつもと様相が違いました。撮影開始時には全員が集まり、同期の皆に囲まれての撮影。撮影の都度、仲間から声が上がります。「今、目閉じた」「今のいい顔!」「もっと笑顔で!」この光景が、彼らの2年間を象徴しているようでした。

彼らは、普段から明るく賑やかで、研修医室にも笑顔があふれていました。2年前に決まった男性・女性それぞれのリーダー。彼らは、そのリーダーを尊重しつつも、時と場面によってリーダーが柔軟に入れ替わり、お互いをフォローし合っていました。その根底にはお互いを理解・尊敬し、思いやる心が皆にあったように思います。

修了式直前に屋上へ。2年前の研修初日を再現です。当時のような快晴ではありませんでしたが、綺麗にそびえたつ岩手山。彼らの門出をお祝いするかのようです。18名のうち12名は当院で後期研修医として勤務し研鑽を積み、他の6名はそれぞれの目標・夢に向かい旅立ちます。素晴らしい仲間と共に過ごした当院での2年間の糧となるよう、そして何よりも彼らの今後の活躍を心から願っています。



## 東北農政局長賞受賞およびアンバーへのヘルシーメニュー監修について

栄養管理室 曾我 美沙希

この度は、農林水産省主催の第8回地産地消給食等メニューコンテストにおいて、東北農政局長賞をいただきました。受賞献立は「いわてもちもち雑穀すい豚（とん）」です。

**メニュー内容（写真参照）**

- ・桑茶入りサラダすいとん
- ・県産豚のもっちりず揚げ
- ・長芋と原木しいたけのゆかり和え
- ・雑穀甘酒と豆乳のゼリー



いわての郷土料理のすいとんと豚肉料理でおもてなしのお膳を作りました。

**【桑茶入りサラダすいとん】** 桑茶はミネラル成分が豊富で、糖の吸収を抑制する効果もあるといわれています。桑茶をパウダー状にし、「すいとん」に練り込み、新鮮な県産野菜と肉厚の油揚げをのせ、サラダ風にアレンジしました。

**【県産豚のもっちりず揚げ】** 岩手の紫波町はもち米生産日本一です。県産の美味しい豚肉でもちとチーズを挟み、あまい蒸し南瓜とシャキシャキサラダを付け合せにし、ボリュームのある一品にしました。

**【長芋と原木しいたけのゆかり和え】** 肉厚で食感の良い原木しいたけと長芋をゆかりで和えた、さっぱりとした小鉢です。

**【雑穀甘酒と豆乳のゼリー】** 岩手県は雑穀の国内生産量日本一を誇る雑穀王国です。その雑穀と県産米の米麴をブレンドした甘酒に豆乳を加えゼリーにしました。さらに整腸作用のある甘茶をジュレにし、二層仕立てにしました。砂糖不使用でも程良い甘さのある健康スイーツです。

**アンバーへのヘルシーメニュー監修について**

岩手県食塩摂取量全国ワースト1位を受けて、院内レストラン「アンバー」にて、平成27年12月より調理師と管理栄養士が考案したヘルシーメニューの提供が始まりました。メニューは「彩り野菜のキーマカレー」、「減塩ラーメン」です。「彩り野菜のキーマカレー」は、たっぷりの野菜が入ったトマトベースのルーにおからを加えて満足感を出しました。また、隠し味でりんごジュースを加え、まろやかな味付けに仕上げています。1食550kcal、塩分2gとなっています。「減塩ラーメン」は鶏がらだしのスープにオイスターソースを加えて旨味を出しました。100gの野菜と豚肉をトッピングして1食500kcal、塩分4gとなっています。このように栄養管理室では、調理師と管理栄養士が常に協力し、入院患者さんの栄養管理はもちろん、質の向上のために料理コンテストに応募するなど、職員の健康についても支援をしています。

## 第66回日本病院学会 市民公開講座のご案内

業務企画室長 藤本 繁

平成28年6月23日(木)、24日(金)の両日、盛岡市におきまして「第66回日本病院学会」を岩手県立中央病院が担当して開催いたします。

メインテーマを「医療人のあるべき姿 BUSHIDO (智・仁・勇)をもって 一地域が支える医療、地域が育む医療」とし、日本全国から多くの病院や医療機関の関係者が参加する学会となります。

当学会では、学会参加者向けに多数の講演やセミナーなどが予定されておりますが、下記の特別講演につきましては、市民の皆さまにもご聴講していただけるよう市民公開講座と致しました。

貴重な講演を聴くことができる機会です。皆さま方のご参加を心よりお待ちしております。

### 【市民公開講座】

期日 平成28年6月24日(金)

会場 マリオス(盛岡市民文化ホール) 大ホール

※入場無料。また、事前申し込みの必要はございませんので、ご自由にご参加ください。

「特別講演1」 14:00~15:00

講師 戸羽 太 氏(陸前高田市長)

テーマ 「陸前高田市の復興状況と課題 ーそして希望ある未来へー」

「特別講演2」 15:00~16:00

講師 柳田 邦男 氏(ノンフィクション作家)

テーマ 「 (未定) 」



## 編集後記

この時期になるとお世話になった人の転勤、新しい人たちの転入など慌ただしくなり、何かと忙しくなる今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、最近、人を人として尊重する、他人を思いやる風潮がそこかしこで欠けてきているのではないかと危惧するのは私だけでしょうか？何が何でも自分の意見をゴリ押しするのが自分にとって一番良いこと、といった風潮が世間のあちらこちらに見え隠れするような気がします。匿名性が高い反面、真偽は関係なく投稿した事が全世界に知れ渡ってしまう怖い部分も併せ持つネット社会、これが影響している可能性も有るかもしれないですね。例えば、インターネットで調べた病気についての自分の知識が目の前の医療関係者よりもずっと正しく、治療方針まで自分で決めようとする人もいます。医療関係者も日々勉強して最新の診療をする様に努力するのはもちろんですが、場合によっては、最新の医療がその人にとって最善の医療であるかどうかは判断に苦しむ場合もあります。ここはやはり医療期間と患者さんとがよりよい信頼関係を保って、最良の医療を提供するためにもお互いに歩み寄りお互いを尊重し合っていく事が大事なかもしれません。本年度もよろしくお願ひ申し上げます。



### ★おしらせ★

次回の健康講座

切らずに治す脳卒中

日時: 4月17日(日)14時から

場所: プラザおでって

入場無料・事前申込み不要



ふれあいNo273 平成28年4月 発行  
中央病院広報委員会

◆委員長 島 岡 理

川村 実	舘澤 文男
古舘 美佳	吉川 和寛
藤原 睦子	及川 真由美
角張 祐斗	佐々木 貴美子
曾我 美沙希	漆田 咲礼
佐藤 僚太	高舘 裕子
吉田 奈穂子	



古紙ハルブ配合率70%再生紙を使用

### 岩手県立中央病院

〒020-0066 岩手県盛岡市上田1-4-1

電話 019-653-1151 Fax 019-653-2528

<http://www.chuo-hp.jp>

「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。